



熊本 和夫  
(自民党)

**LRT事業の正確で  
力強い情報発信を**

**問** 28年11月の選挙で市長は信任を得たが、議員と行政には間違った情報を払拭し、これまで以上に正確な情報を市民に伝えるという責任が課せられた。執行部には事業検討、市民説明についてこれまで以上の丁寧で効果的な対応を望む。

①整備費や運営費など正確な情報を改めてはっきりと示すべきと考えるがどうか。  
②本市の目指すまちづくりについて力強く発信し、市民の理解を深めるためには、全庁体制で組織を構築する必要があると考えるがどうか。

**答** ①優先整備区間の概算事業費は、本市域分412

億円、芳賀町域分46億円合わせて458億円と算定している。また、運営費のうち収入は開業4年目で約9億8千万円、支出は約8億5千万円、年間約1億3千万円の利益を見込んでおり、これらの情報は、広報紙やオープンハウスなど、あらゆる機会を通じて情報提供や説明を行ってきた。

②情報発信については、イラストや映像などにより、一目見て分かるよう、工夫するとともに、より多くの方に情報が届くよう、効果的な広報活動について庁内横断的な組織を設置し検討を開始しており、より一層の市民理解の促進に取り組んでいく。

**その他の質問項目**

- ①市政運営と第6次総合計画の策定②駅東口地区整備事業③人口減少・少子化社会へ向けた子育て環境の整備充実④保育士確保と働き保育士・保育所支援センター⑤B型肝炎予防接種⑥デスティネーションキャンペーン⑦ミッドナイト競輪⑧就学援助制度



南木 清一  
(自民クラブ)

**海外を視野に農産物の販路拡大を**

**問** 国内では、人口減少で食料需要が減少し、産地間競争はより厳しくなると思われる。また、世界では人口が増加し、富裕層も拡大していることから、国内はもちろん海外にも目を向け農産物の販路拡大に取り組むことが、農家の所得安定・向上には重要と考える。

農産物の輸出拠点である那覇空港を有する沖縄において、本市が販路拡大に乗り出すことは、海外へと繋がる戦略的な取り組みであると期待する。販路拡大の基本的な考え方と今後の取り組み内容について聞く。

**答** 沖縄でのマーケティング調査を経て、夏秋

ちこの継続的な商取引が開始され、また、本市の地域商社がうるま市の地域交流拠点施設運営に参画し、物流の仕組みが構築されることから、効果的に本市の魅力を発信し、沖縄との「人・モノ・コト」の相互交流を進めるため、物流拡大に向けた市場調査や、フェアなどの開催、アジアへ向けた輸出促進への取り組みの経費などを、28年12月の補正予算に計上した。

今後とも、市の農産物の市場価値を高めるとともに、多様な販路拡大に取り組む、持続可能な力強い農業の確立を目指していく。



▲夏秋いちご

**その他の質問項目**

- ①市長4期目の市政運営②29年度予算化要望③ネットワーク型コンパクトシティの着実な形成④宇都宮駅東側の公共交通ネットワークの充実⑤観光政策の推進⑥道徳教育の推進⑦歴史や伝統文化の教育を通じた郷土愛の醸成⑧山車を活用したにぎわいづくり



駒場 昭夫  
(市民連合)

**LRT事業  
万全の安全対策を**

**問** 全線新設は国内初であり、安全対策に万全を期さなければならぬ。路面電車の長年の歴史がある豊橋市でも、交差点右折時などで事故が起きており、安全意識も、路線周辺とそれ以外の住民では異なると聞いた。

沿線の大型商業施設周辺には、市外の人も多く行き来することが想定されるため、広く県民、市民へ、様々な条件での交通安全教育を含めた安全対策について、啓発活動が必要と考えるがどうか。

**答** 初めて路面電車が走行することになるため、十分な安全性の確保と交通安全教育などの周知・啓発が必要と考えている。

現在、交通信号によるLRTと自動車との分離など、関係機関と協議を行い、幅広い視点から検討を進め、地域の意見を踏まえながら、十分な安全性の確保に努めている。また、第10次市交通安全計画の策定にあたり、LRTの整備に合わせた交通安全教育の実施などを新たに盛り込んだ。

今後、市内外の人がわかりやすく安全に利用できるように、交通法規の周知や、試運転時の体験型安全教室などを含めた交通安全教育の実施、広報紙やポスター・リーフレットなどによる情報発信、さらには、県民への周知方法などについて、関係機関と協議・調整を行いながら、十分な啓発活動を行っていく。

**その他の質問項目**

- ①イベントなどの安全確保②産後ケア事業③蒲生君平の顕彰④鬼怒川サイクリングロード⑤オープンカフェ⑥防災行政